

学習指導案の形式（例） 小学校 特別の教科 道徳

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連、児童の実態や指導内容、更に指導者の構想や意図により、様々な創意工夫していくことが求められている。『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』を参考にする。

第○学年○組 道徳科 学習指導案

平成○年○月○日（○） 第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 主題名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ [○○○○○]

◇原則として、年間指導計画における主題名を記述する。主題名から、何を指導するのか、授業の内容が把握できるようにする。
◇内容項目は『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』を参考にし、内容を端的に表す言葉を書く。

2 ねらい

◇教材の特質を生かし、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する視点を明確にして、具体的に明記する。※原則として、年間指導計画におけるねらいを記述する。

例：(教材・活動等)を通して、(内容項目)しようとする(道徳性の諸様相)を育てる。

◇指導者の立場で書く。

3 教材名「○○○○○○○○」(出典：○○社「○○○○○○○○」)

※補助資料や予備資料があれば付記する。

4 主題設定の理由

◇指導者がねらいとする道徳的価値についてどのように考えているのか、児童はねらいとする道徳的価値についてどのように学び、現在ではどのような状況にあるのか、指導者の思いや願い、児童の実態を踏まえて教材をどのように活用するのかなど指導観を示す。

- (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方
- (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
- (3) 使用する教材の特徴や具体的な活用方法
- (4) 研究主題との関連

◇(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方
・ねらいとする内容項目の意義
・社会から要請されている今日的課題
・内容項目についての指導者の基本的な考え方

◇(2) これまでの学習状況や実態と教師の願い
・ねらいとする内容項目の視点から把握した児童の道徳性の傾向
・今までの学級活動等での指導との関連性
・期待する児童の姿

◇(3) 教材の特徴や具体的な活用方法
・使用する教材の概要や取り上げた意図
・その時間での活用のポイント

◇(4) 研究主題との関連
・研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題を踏まえた指導の具体的な方策
・児童の実態を踏まえた指導の具体的な方策

5 他の教育活動との関連等

◇道徳科の指導の効果を高めるために、下記などについて示すことも大切である。
・各教科等における道徳教育との関連
・他の指導者との協力的な指導
・事前指導や事後指導
・道徳的体験活動や日常の個別指導との関連
・家庭や地域との連携

◇指導者の立場で書く。

6 学習指導過程

◇学習指導過程には、特に決められた形式はない。教師の指導の意図や教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をする。また児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れるなど指導方法を工夫する。

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
<p>◇児童の立場で書く。</p> <p>1 〈導入〉</p> <p>◇導入はねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる動機付けを図る段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に関わる問題意識をもたせる ・教材の内容に興味や関心をもたせる <p style="text-align: right;">など</p> <p>2 〈展開〉</p> <p>◇展開は、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態と教材の特質を押さえた発問などで展開する <p style="text-align: right;">など</p> <p>3 〈終末〉</p> <p>◇終末は、今後の発展につなぐ段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して考えたことや新たに分かったことの確かめなどをする ・これからへの思いや課題について考えたりする <p style="text-align: right;">など</p>	<p>◇指導者と児童の立場で書く。</p> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◇発問に対して、予想される児童の反応例を書く。 <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中心的な発問には、◎印などを使って際立たせる。 <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇発問の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・考える必然性や切実感のある発問 ・自由な思考を促す発問 ・物事を多面的・多角的に考えたりする発問 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>◇指導者の立場で書く。</p> <p>◇導入の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類似の体験を想起 ・教材に関する写真、映像、新聞記事などの利用 <p>◇教材を提示する工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による読み聞かせ（紙芝居・影絵など） ・ビデオの映像 <p style="text-align: right;">など</p> <p>◇留意すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して、児童が物事を多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで道徳的価値を理解したりできるような学習活動を取り入れる。 <p>例：話し合いの工夫（討議形式、ペアでの対話など） ：書く活動の工夫 ：表現活動の工夫（役割演技、動作化など）</p> <p>◇終末の工夫</p> <p>例：説話の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験や願い ・日常生活問題を盛り込んだ話

〈評価の視点〉

◇道徳科の評価は、指導のねらいと関わりにおいて、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて一人一人の児童の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し改善に努めることが大切である。

※評価方法例：観察（表情）、発言・つぶやき、ワークシート・ノート、質問紙 など

例：○児童が道徳的価値の理解を自分自身との関わりで考え、意欲をもって学習に参加している。

○児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している。